

つとよい

第28号

令和4年
3月発行

編集・発行：土浦市女性団体連絡協議会

できるところから行動を

土浦市女性団体連絡協議会 会長 今高博子



コロナ禍と向き合う暮らしは3年目に入りました。五月、私たち女性団体は

この未曾有の時に何を感じ、どう過ごしていたか、今こそ記録が大事と考え、アンケート調査を行い冊子にまとめました。

全ての声を記載しました。あたり前だった日常生活の大切さを実感する声や、人とのつながりが絶たれた不自由さや戸惑いの気持ちなども多数ありました。「休業・失業・収入減」を回答した人は4分の1にも及びました。妻は自宅待機、給料なし」の切実な声は派遣や非正規労働の女性にコロナ禍の影響が重くのしかかっている実態が見えるようでした。

十一月は「児童虐待とDV防止啓発月間」です。啓発のリボンツリーを市庁舎、各公民館に、警察署にも置かせていただきました。外出自粛の密室での暴力に苦しむ人たちに「我慢しない」の声が届くことを願いました。

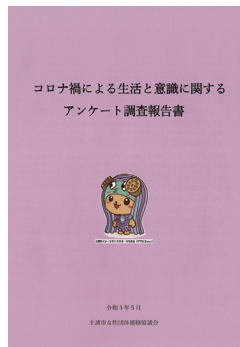
更に、子どもの痛ましい虐待事案とそこに潜むDVとジェンダーとの関連について勉強会を実施。①子どもの様子が「変だな？」と思ったら、空振りでもいいからすぐに行政につなぐ。②通報は「国民の義務」。③地域での心遣い、目配りが児童虐待・DVの防止につながることを確認しました。

二月末、ロシアによるウクライナ無差別攻撃が勃発。私たちはすぐに「ロシアのウクライナ軍事侵攻に断固反対」の決議文を作成し、これからの人道支援について話し合いました。

私事です。95年のバルト三国研修で、通訳してくれた女子高生のこと、頭に浮かんできます。当時、日本語のわかる人は少なく、旅行社がやっとな見つけてきた人でした。車中「チエリノヴィリ原発事故で被曝し、日本で治療、それで日本語を少し……将来は日本で学びたい」と夢も語っていました。そんな彼女らが二度も被曝するなど絶対にあつてはなりません。私たちは一日も早い平和な社会を求め、できる所から行動して行きます。

「コロナ禍による生活と意識に関するアンケート」

「調査報告書」を作りました



調査報告書

コロナ禍の生活について記録に残そうとアンケート方式で実施しました。調査期間は緊急事態宣言での外出制限など体験した令和2年の年末から令和3年1月。対象者は10代以上の土浦市民、回収率78%、363人から回答を得ました。

市民の貴重な意見としてしっかりと記録に残すことができ、報告書として土浦市にも提出しました。これは土浦市民活動情報サイト「こらばの」で閲覧及びダウンロードが可能です。ぜひ多くの方に読んでいただき、これからの明るい未来を描けるよう役立つことを願っています。

「収入減った」17.6%

「収入減った」17.6%
「収入減った」と回答した人は、10代から50代まで、男女問わず見られ、収入減の割合は、10代が11.1%、20代が17.6%、30代が17.6%、40代が17.6%、50代が17.6%と、年代別の差はほとんどありません。収入減の割合は、男女別では、男性が17.6%、女性が17.6%と、性別による差もありません。収入減の割合は、職業別では、専業主婦が17.6%、パート・アルバイトが17.6%、学生が17.6%、無職が17.6%と、職業による差もありません。収入減の割合は、世帯タイプ別では、単身世帯が17.6%、二人世帯が17.6%、三人以上世帯が17.6%と、世帯タイプによる差もありません。収入減の割合は、世帯収入別では、世帯収入が100万円未満が17.6%、100万円以上200万円未満が17.6%、200万円以上300万円未満が17.6%、300万円以上400万円未満が17.6%、400万円以上500万円未満が17.6%、500万円以上が17.6%と、世帯収入別による差もありません。収入減の割合は、世帯人数別では、一人世帯が17.6%、二人世帯が17.6%、三人以上世帯が17.6%と、世帯人数別による差もありません。収入減の割合は、世帯人数別では、一人世帯が17.6%、二人世帯が17.6%、三人以上世帯が17.6%と、世帯人数別による差もありません。

土浦で学ぶ オンライン会議

「日本女性会議 2021 in 甲府」

～未来へつなぐまちづくりは人づくり～

於：土浦市男女共同参画センター研修室
令和3年10月22日(金)・23日(土)



「日本女性会議 2021 in 甲府」はオンラインでの開催でした。1日目は、男女共同参画センター研修室で会員30名が「開会行事」や「内閣府よりの基調報告」「シンポジウム」を視聴し、2日目は各自が自宅で分科会に参加するという内容でした。

基調報告は日本女性のジェンダー平等の現状を、さまざまな視点から数値を多用しながら説明。シンポジウムは、これまでの日本女性会議のジェンダー平等への貢献と今後の課題について社会学者の上野千鶴子氏を中心に過去に実行委員長を経験した方々とディスカッションをしました。

自宅でのオンライン視聴は、どの分科会にも何度でも参加できるという点でオンラインの良さを実感しました。

基調報告

全ての女性が輝く

令和の社会へ

内閣府男女共同参画局長
林 伴子氏

基調報告を視聴して

ジェンダー平等について

安達ひろみ

今回このオンライン会議に参加してジェンダー平等の意味、問題点を理解することができました。

先進国であるのに世界各国と比較すると、ジェンダーギャップ指数が、極めて低いことに驚きました。この指数を上げていくにはどのようなしたらよいかが、今後の大きな課題だと思いました。まずは身近にできることから、ジェンダー平等に向けて取り組めたらよいと思います。

例えば、家庭内での女性の役割分担を減らすことにより、負担を軽減したり、社会では女性管理職の雇用を増やしたり、男女間の差を減らしていくことが重要だと思えます。今後各行政の男女共同参画に期待いたします。

シンポジウム

日本女性会議38年

の総括と未来

（日本女性会議2021
in 甲府からの提案）

シンポジウムを視聴して

今後の女性会議の在り方

黒澤陽子

1984年名古屋で開催された1回目の日本女性会議は、祝福されない中で開催されたそうです。38年間でワンオペ育児や生理、貧困など変わらない課題も多いが、女性会議の誕生などエンプワメント効果はあったそうです。過去のシンポジウムの経験や変化の話を聞くと、男女が共に活躍する「トモ活」や男性が家事を行う活動が報告されています。「男女平等に関する問題」は根深い課題であり、時代と共に変化していく。女性



会議も変わらなくては。「女性会議もイベントから定着へ！」今後の女性団体の活躍に期待します。

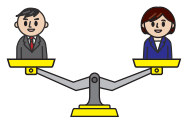
参加者の感想



熱心に画面を見つめる参加者

- ・日本女性会議38年の分析・結果は見ごたえがありました。開催した都市ではその後、だいぶ変化が見られたことも結果として表れたとのこと。なかなか結果が出ないのが常なのに、すごいことだと思いました。
- ・茨城県も今までのまとめをしてはいかがでしょうか。若い世代へのアクション、どうすればよいか。
- ・日本女性会議を男女平等、人権として位置づけることが基本と強く思う。若い世代にこれを具体的に伝える手法などももう少し具体的な話も聞きたかった。開催地は変化し、成果があったことは分かったがそれが他市町村にどう広がるような努力はしなかったのかそこが聞けなかった。
- ・オンラインは便利だが、やはり対面での交流によって得られるものは大きいと思う。この形式が続くと各地を巡るメリットを失いかねない。方策を考えるべきだと思う。

- ・男性の参加がないのでどうかなあ。
- ・まだまだ男女平等にはほど遠いことを思います。特に女性の生き方が広範囲になり、選ぶことができること、家庭との両立など考えさせられます。女性の独立とは経済的にも独立することを含みます。いろいろと考えさせられました。
- ・上野先生の辛口トークはおもしろい。女性会議がどのように開催したか、今後各地域に広めていく必要がある。
- ・日本女性会議、多くの人に参加（リモートでも可）できるように対象を広げていかなければならない。各世代の特技を生かし、情報交換・情報発信が必要。
- ・まずは政治の場から少しでも女性の進出を増やす必要を感じた。
- ・女性の立場の低さ、日本の現状を知ることが良かった。



都会や他業種から就業した人々の成功した働き方改革が語られました。会社組織とし、週休2日8時間勤務にした。しゃがまない体に負担の少ない農法の考案。トイレ完備等々。また、系統出荷だけに頼らず、何より所得の向上・安定を図る。またいわゆるハネ出し物を6次産業化し収入アップ以上にフードロス削減という立派な目標につながったとのこと。注目に値すると思います。また、農業体験等も積極的に実施され、収穫の喜びを次世代の子供に体現させることは、食べ物の元の形を知らせることも出来、食育の一環としても期待されます。若い気力・能力のある人材はよそ者であっても温かく迎え入れアドバイスもしている地元の人々の存在も心強く思いました。

「生まれてから死ぬまで地域で暮らすために」という演題のもと、地域活動を進める大学准教授、有料老人ホーム・ホスピスホーム代表、デイサービスセンター経営者、助産院院長の方々が日々の活動を報告し提言しました。大塚ゆかり山梨大学人間福祉学部教授からは、現状から課題を見つけて取り組みの方針を決めて未来をめざす。一体感をもちにくく地域への関心が薄くなっている今だからこそ交流できる場づくりと、情報を発信して「人づくり」をすることが大切とお話がありました。

パソコン画面から熱意をもって話す方々を身近に感じて共感することができ、オンライン会議はとても勉強になりました。



自宅で

「日本女性会議・分科会」視聴

分科会7

未来へつなげる

「農業・食の魅力」

木野 英子

分科会9

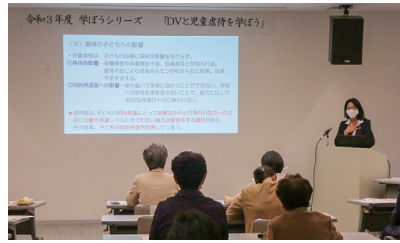
生涯活躍・健康

今泉 芳子

第10回 学ぼうシリーズ

DVと児童虐待を学ぼう

令和3年11月8日(月)
男女共同参画センター
研修室



講話をする加藤史子氏

今回の「学

ぼうシリーズ」では、令和3年度4月の土浦市の機構改革により新設された「子ども未来部」の部長、加藤史子氏を

講師に迎えて、お話をお聞きしました。その後、土浦市男女共同参画室室長より「女性のための相談窓口」の説明があり、また、相談員の今高博子氏より、DVの深刻な実態やジェンダーとのかかわりについて話を聞きました。

講話の概要

児童虐待には ①身体的 ②性的 ③精神的 ④ネグレクトの四つがあり、その影響は深刻で身体や知的発達面、心理的な面にも及び子どもの将来に禍根を残す。親がいくら一所懸命であつても、子どもを思つてする行為であれば虐待となる。子どもは小さな大人ではない。子どもに十分な関心と配慮が

必要である。

DVは身体的、性的、精神的、経済的な面で相手を支配する目的で行使される。暴力は重複しながら長期にわたり、家庭の密室で行われ、表面化しにくいことが特徴。

虐待する親を非難するだけではなく、親の間違った行為を正し、家族を支援する必要がある。子どもは地域の宝。少子化により地域住民みんな子どもを育てる時代。早期発見、切れ目ない支援と地域の親子に向けられる優しい声掛けなどで虐待、DVを防止することができる。

虐待、または虐待の疑いを発見!

- ① 緊急の場合→警察へ ☎110番
- ② 土浦市子ども家庭総合支援拠点 ☎029-826-1111 (内2392)
- ③ 児童相談所全国共通ダイヤル ☎「189」(いちはやく)
- ④ 茨城県土浦児童相談所 ☎029-821-4595

DVと児童虐待の

講話を聞いて

河田 輝子

昨今、連日と言つていいほど、メディアに取り上げられるのを目にする「DV・児童虐待」について学ぶ機会がありました。

加藤部長はお話しの中で、「DV」いわゆる配偶者からの暴力と児童虐待の現状など子どもや保護者の様子等の細部の説明から、虐待ではないかと気づくためのチェックリストを示してくれました。

少子高齢化の時代、未来の尊い命を守らなければという強い思いを持ちました。

少しでも博和会のメンバーに伝えたいと考え、小人数で本当に久しぶりに集まりました。そこで「ダブルリボンツリー」や「189(イチハヤク)児童相談所虐待対応ダイヤル」の内容等を話しました。会員の皆さんは非常に関心を持っていて、日頃、虐待報道があるたびに心を痛めていたようです。

今後は、皆で支えあつて少しでも手助けする行動が出来ればと考えています。

ロシアによるウクライナ侵攻に断固抗議する決議

今、この時にも戦争で子どもを含む多くの尊い人命が失われています。報道を目にし、心落ち着かない日々です。

このような武力で物事を解決する方法は絶対にあつてはなりません。戦闘行為を一刻も早くやめ、核兵器の使用を示唆し、他国を屈服させようとする蛮行に対し断固反対、抗議します。

ここに土浦市女性団体連絡協議会は、「戦争反対」を言いたくとも声に出すことで命まで危ぶまれる人々の声も込めて、ロシアに対し、一連のウクライナへの軍事侵攻に対し、「戦争反対」と声を大にして訴えます。政府においては、国際社会と緊密に連携し、「命」と「生活」が脅かされている人々に対して、一日も早く平和な日々が戻り、家族が安心して眠れる場所、食事がとれる人道支援を早急に行うことが緊要です。

以上、決議します。



令和4年3月4日 土浦市女性団体連絡協議会

土浦市まちづくり市民会議

土浦市女性団体連絡協議会



土浦市男女共同参画 × 市民協働 フェスティバル



「市民まちづくり会議」は市民が交流と融和を深め、住みよいさわやかな土浦のまちづくりを目指して活動している団体です。今回初めて私たち女性団体とコラボしてフェスティバルを企画しました。コロナ禍でメイン会場での講演などは中止になりましたが、パネル展は多くの団体が参加。

来年度こそは2団体と土浦市の共催で楽しいフェスティバルに再チャレンジ！皆さまのご参加をお待ちしております。

・パネル展：1/15～1/23

会場：県南生涯学習センター

・講演会：オンライン配信

2/1～2/28

講演会（オンライン配信）

「女性の視点を取り入れた地域 災害対応力の強化」

～コロナ感染リスク下で命を守るために～

講師 減災と男女共同参画
研修推進センター

共同代表 浅野 幸子氏

自宅対策

- ・室内の安全（家具固定等）
- ・備蓄品の準備（水、食糧、簡易トイレ、マスク、生理用品など）
- ・家族の状態に応じたケア用品の準備（乳幼児、高齢者、障がいのある人）
- ・ハザードマップの確認（災害の種類に応じた避難所への安全経路等）

地域対策

・近所の高齢者、子供、障がいのある人、自宅避難者などに早い支援をつなげることも含め、地域の市民団体（PTA、老人会、女性団体、ボランティア団体など）を中心に日頃より自主防災組織の育成に努める。

女性の視点を取り入れる対策

・防災は男性視点に偏りがち。自主防災組織の意思決定の場に女性や多様な視点を取り入れること。少なくとも女性は3割、年代も中学生～60・70歳代を含むことが大事。静岡県掛川市や青森県おいらせ町、三重県四日市など男女混合の防災組織作りを行っている。女性目線を含む防災力向上の予防訓練が避難所運営の鍵になる。

講演を視聴して

鈴木君枝

女性の視点を取り入れた地域災害対応力の強化についての内容ですが「コロナ感染リスク下で命を守るためにはどの様に対策をしていくか」を多くの事例をもとに話されました。まず身近なことでは各自宅の対策が必須であること。避難訓練の企画・運営の中枢に各世代の女性や子供が入っているかを考慮することも必要なことである。地域における生活者の多様な視点を反映した防災対策を実施することにより地域の防災力向上が図れると実感しました。



木・人・紙

幼児期にチョコレートやアメの包紙のシワをのばして眺めて楽しんだ。でもそのしぐさは戦時中「禁じられた遊び」の映画ではないが、白い紙にも事欠く生活が続いたからだ。トイレトペーパーや習字練習紙も新聞紙だった。現職中は生徒会活動の一つとして古紙回収を実施し、売上金を赤十字社・ユネスコ協会にカンパをしたり、また地域の高齢者の交流などに使用した。一枚の紙の重さを今も感じながら生活している。 栗栖 恵子

新聞に「昨年の衣類の廃棄は51万トン」とあった。私も服を購入する時「長く着られる」で選んでいたのに、いつの間にか「楽で、安い」に代わっていた。飽きてしまった服は、着方を変えればおしゃれに着られるかもしれない。それに和服。「結局、廃棄されるのだろう」と悲しく思っていたが、自分の割烹着ならできそうだ。「今ある服を1年長く着れば4万トン以上廃棄削減につながる」という。頑張ってみよう。楽しみが増えるかもしれない。

60代女性

諺に怖いもの「地震 雷 火事 親父」とあります。本当だと思知らされる地震災害が各地で起きています。小笠原諸島での海底火山噴火が沖縄の漁業、観光業に悪影響を及ぼしています。テレビ映像で波に乗って軽石が白く映る姿を見て、心配していたら、とうとうその軽石が関東までたどり着きました。世界中が取り上げているプラスチックごみ、魚が飲み込み死に至り、どんどん生態系が破壊されていくことに心を痛めています。私達がポイステをやめるなど小さな事の積み重ねが生活環境を守る手段かと思えます。

矢口 恵子

わたしたしのエコ暮らし

環境に配慮した暮らしをお聞きしました



食品ロスとは、まだ食べられるはずなのに捨てられてしまう食品のこと。調べてみると日本では毎日大型トラックで1600台分の食品を廃棄。私のできる対策の一つは、出汁を取った後、昆布や鰹節を振りかけや佃煮に。野菜の皮はきんぴらや野菜スープに再利用します。また作り過ぎた食品は冷凍保存し大切な食べ物を無駄なく食べきり、これからも環境面や家計面に工夫をし、対策していこうと思います。 大津 正子

ニンジンもサカナも調理が終わった途端にゴミになる。おいしく食べた料理も残った物はもうあの嫌なゴミ。そこで私の一案は腐りにくいものは、コンポストで土に還す。他は網袋に入れて、冷凍庫のタッパーの中に。凍ったまま黄袋に入れて市に回収してもらう。こうしてからは、においも虫の心配もなくなり、安心して生活できている。

田中 治江

私は野菜を購入する際、地元の直売所かスーパーの地場産コーナーを利用します。スーパーには高知県産の茄子や熊本県産のトマト、その他の全国から、あるいは海外からの野菜も並んでいます。しかし、あえて地元産のものを選びます。茨城県は食材の宝庫。なにより新鮮ですし、輸送費やその過程で発生するCO₂の削減にもつながると考えています。私が購入するのはわずかな量ですが、今後も続けていきます。

60代女性

連日、地球温暖化のニュースを耳にし、地球規模での対策が議論されています。高度成長期に国が一丸となって頑張っていた時に後回しになっていた環境問題のツケが回ってきているように思います。その時代を生きて来た者として次世代に対して少しでも住みやすい環境にして行く事は、当然の事と痛感いたしています。まだまだ足りませんが継続していきたいと思っています。 中川 武子

総務部会活動報告

部会長 田村 尚子

令和2年度に続き本年度もコロナの影響を受け、総務部会としても新しい事業の計画などできず、ほぼ例年通りの事業展開となりました。

1. 市議会傍聴の調整

2. 昨年作成したパープルリボンのツリーの飾りつけ。各公民館では、昨年同様ホールや玄関前などに飾ってくださいました。



多くの人に理解してもらえよう、ティッシュペーパーに「女性に対する暴力をなくそう」のメッセージカードを入れました。



研修部会活動報告

部会長 峯村 きみ子

日本女性会議2021 in 甲府のオンライン視聴会の実施。

内閣府男女共同参画局長・林伴子氏

広報部会活動報告

部会長 今泉 芳子

コロナ禍の合間をぬって、各種行事や会議が行われた一年でした。

原稿依頼には、会員の皆さんが、気持ちよく引き受けてくださり、真剣で前向きな提案や意見を読みながらの編集作業でした。充実した記事内容になったと思います。ご寄稿ありがとうございます。

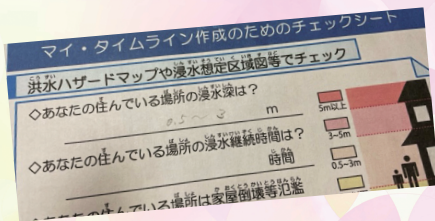
ハザードマップの見方講座に参加して

吉田 照美

昨年「防災における女性の参画について」提言書を土浦市に提出。それに応じて、12月5日、四中地区公民館で「ハザードマップの見方講座」が開かれた。内容は、

- ①洪水・土砂災害の危険地域と各々の避難場所の確認。防災・災害情報の入手方法などの話
- ②マイ・タイムライン（台風の接近で洪水の危険がある時、自分自身が前もってどんな準備が必要かを取りまとめる行動計画表）を各自記入して自分の行動を確認する作業

参加してあらためて霞ヶ浦・桜川沿いは浸水・土砂災害危険地域が多く驚いた。これからは異常気象の影響による甚大な災害も予想されている。常日頃から非常事態に備えてシミュレーションし、心の準備しておく必要性を再確認した。



審議会報告

第3期土浦市環境基本計画

について

山田 陽子

「人と自然が共有する持続可能な水郷のまち つちうら」の目指す将来像の第3期計画では、リーダーシッププロジェクトが3つ掲げられました。5つの基本目標を設定し、持続可能な開発指針SDGsの17の目標に関連づけました。私たち市民が取り組む課題の一部をご紹介します。

ゼロカーボンシティつちうらの実現推進プロジェクトの中、エコドライブの実践では、エコドライブの宣言者数を現在の1747人から今後10年間で3000人に増やすことです。

みんなでチャレンジしてみませんか？



- ・ エコドライブとは
- ・ ふんわりアクセルEスタート
- ・ エアコンの使用は適切に
- ・ ムダなアイドリングはやめよう
- ・ 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- ・ 不要な荷物はおろそう
- ・ 走行の妨げとなる駐車はやめようなどあります。



感想
大勢のボランテニアの人達の暑さを感じさせない仕事ぶりに、ある外国の男性メダリストが「メダルに値するのは、暑い中頑張ってくれたあなた達です。感謝します」と自身が得た銀メダルをボランテニアの女性の首にかけた。グッときたー！あのシーンは忘れられない。

長い五輪の歴史の中で東京五輪はかつてない酷暑の中での開催であったと思う。特に有明アリーナでのテニスの試合、優勝候補選手が、「この暑さには耐えられない酷暑すぎる」と訴えながら対戦するも、暑さ負けで姿を消したという。屋根がなく、日照りと反射でコート上は50℃に近い高温になっていたと思う。(私の経験からも) 選手には本当に気の毒であったと思う。



今回ほどパラリンピックが報道されたことはなかった。障がい者スポーツに関心を持つ人も増えてよいことだと思った。

水泳の視覚に障がいのあるパラリンピアン鈴木選手が金メダルを取り国歌を聞いて号泣する姿に、もらい泣きした。

今までパラリンピックにはあまり関心がなかったが、今回、開催国だったのでテレビの放映内容が充実し見応えがあった。選手たちの親の考え方、子育ての様子等も紹介され、彼らは障がいを持って生まれた子どもを過保護にせず、幼い時から自立を促し、困難に向き合う時むやみに助けたりせず、自ら解決させ、子どもの強さを信じ、見守ったそう。そういう育て方の中からあのような人間の極限の技が生み出されたのか、と障がい児を育てた経験ある者として感慨深く受け止め、パラリンピックを見る目も大きく変わった。

日本女性会議
2022
in
鳥取くらよし
10月28日(金)
~30日(日)

令和3年度 土浦市女性団体連絡協議会事業報告

【自主事業】

- ・学ぼうシリーズ 11/8
- ・ウクライナ侵攻反対決議 3/4

総務部会

- ・会議 1回
- ・市議会傍聴 4回
- ・女性に対する暴力をなくす運動 啓発物作成 10/20

研修部会

- ・会議 1回
- ・オンラインWeb日本女性会議 10/22~23

広報部会

- ・つどい編集会議 6回

【協力事業】

- ・女性に対する暴力をなくす運動 啓発事業 11/12~11/25
- ・土浦市男女共同参画×市民協働 フェスティバル 1/15~1/23

パネル展 講演会オンライン配信

2/1~2/28

編集後記

一昨年からコロナ禍で、毎日終息を願い生活してきましたが、ここに来てまた一つ大きな願い事ができました。戦争はあってはならない。一日も早く戦争が終わり皆が安心して生活が送れるように願ってやみません。

「つどい」は、昨年同様、インターネットや手紙でのやりとりで編集を進めました。また、日本女性会議やフェスティバル講演会は自宅でのオンライン視聴も取り入れられ、デジタル化の進歩を実感しました。

今号は「わたしのエコ暮らし」と「東京2020オリンピック・パラリンピック」が特集でした。皆様、いかがでしたでしょうか。次号で取り上げて欲しいテーマなどありましたらお寄せください。

ご寄稿いただいた皆様ありがとうございました。紙面の都合上一部変更させていただきましたこと、お詫び申し上げます。これからもよりよい紙面作りに向けて、皆様からのたくさんのご意見とご寄稿をお待ちしております。

編集委員

今泉 芳子	井倉 洋子
神立 史子	稲見 清美
岡元 孝子	浅野 正江
河田 弓子	加茂美那子